zoo もりおか

2015 第24号

盛岡市動物公園

テーマ

動物公園で「野遊びをしよう!」

盛岡市動物公園では5～10月の毎週末、芝生広場の横に「野遊びをしよう!」の基地を設けて、四季折々のおもに草花を題材にした自然体験をしていただいています。一度体験した人には大好評!たくさんの人が繰り返し参加してくれています。すぐ隣に設ける「虫捕り基地」も利用して、園内では特に子供たちが自然とふれあう体験に夢中です。

ここでは、実際に「野遊び基地」で案内しているたくさんの内容の中から一部を紹介します。

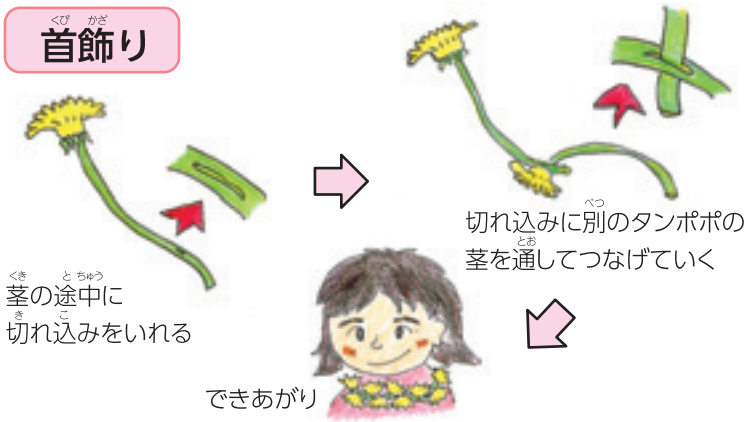
一度覚えれば簡単にできるものばかりですから、皆さんも参考にして野遊びを楽しんでみてください!

—もくじ—

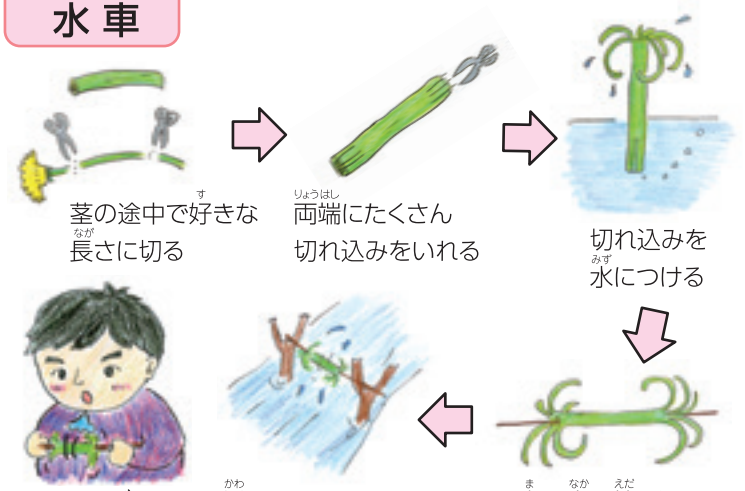
・テーマ　動物公園で「野遊びをしよう!」…… 2・3・4・5
・しいくうらばなし…… 6・7
・園内のしぜん【ハンカチノキ】…… 8

タンポポで遊ぼう

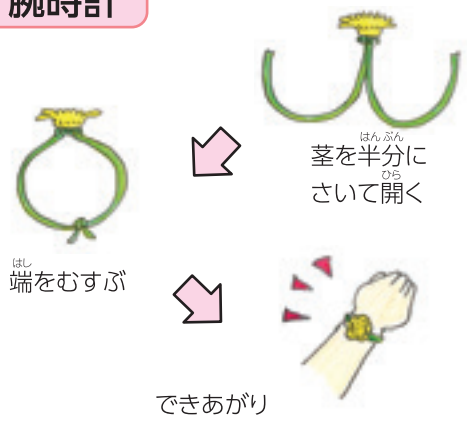
首飾り



水車



腕時計



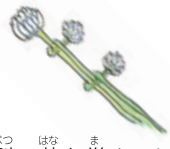
エゾタンポポ　キク科

日本固有のタンポポです。黄色い花びらの下の部分（総苞）が反り返らず上を向いていることでセイヨウタンポポと見分けます。花は春にだけ咲き、夏の間は休眠します。外来種のセイヨウタンポポが増えたため、今ではあまり見かけなくなりました。

＊園内でも数が少ないので、野遊びには使わないでね。

クローバーのかんむり

茎の下から切る



別の花を巻きつけて
つなげていく

長い茎で輪にした部分を
巻きつけていく。

できあがり

ササの葉で遊ぼう

ササ舟

両端を折る

折った両端に
2か所ずつ
切れ込みをいれる

左端を右端に折り込む
反対側も同じように折る

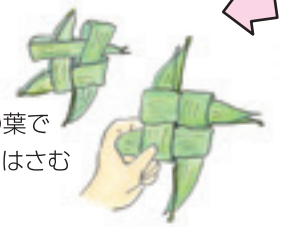
できあがり

ササの葉手裏剣

ササの葉を4枚準備して
半分に折る

2枚目の葉で1枚目を
はさむ

3枚目の葉で
2枚目をはさむ



4枚目の葉で
3枚目をはさむ

できあがり

葉っぱプリント

ペンで葉の裏に色をぬる

色がかわかないうちに紙にはさんでこする

できあがり

オオヤマザクラ　バラ科

花が咲いてから葉の出るソメイヨシノとは違い、オオヤマザクラは葉と花が同時に開きます。花の色が濃く、夏には黒紫色の実がなります。

草花絵の具

色が濃い目の草花を
集めてちぎる

ちぎった草花を
ビニール袋に入れて
優しくたたく

たたいた草花を
ガーゼに包んで
汁をしぼる

紙に好きな絵を書いてみよう

できあがり

レンゲツツジ ツツジ科

つぼみの形が蓮華に似ていることからこの名前がついています。花はとてもきれいですが、木全体に毒があり、葉はウシやウマも食べません。蜜も決して吸ってはいけません。

松葉相撲

マツの葉を
たくさん集める

輪ゴムなどで
たばねる

葉っぱの顔を
つけて、
できあがり

箱や厚紙などの上にのせて、
まわりをたたいて動かしてみよう

アカマツ マツ科

樹皮が赤いことからこの名前がついています。マツボックリは種を遠くに飛ばすために、乾燥している日に傘を開き、湿度が高い日は傘を閉じます。

葉っぱの風車

きれいな葉っぱを
ひろう

プロペラの形に
葉を切り取る

葉のまんなかに
枝をさす

できあがり
息をふきかけて
まわしてみよう

ホオノキの葉で遊ぼう

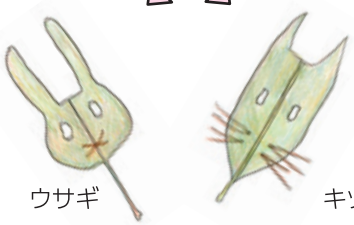
ホオノキ モクレン科

日本の樹木の中で、一番大きい花と葉を持つ木です。花は直径15cm、葉は約40cmにもなります。

お面

葉を好きな形に切り抜く

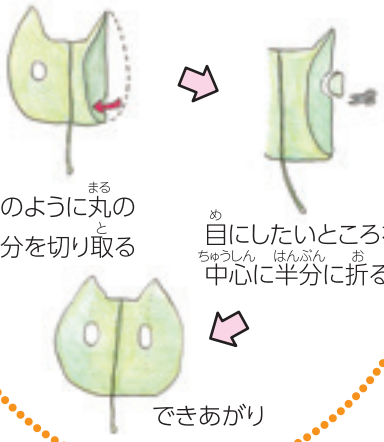
たとえば…



ウサギ　キツネ

マツの葉で口やひげをつけよう

目のつくりかた



絵のように丸の半分を切り取る

目にしたいところを中心に半分に折る

できあがり

飛行機

飛行機のかたちに切り抜く

飛ばしてみよう

できあがり

ドングリでコマを作ろう

ドングリをさがす

まんなかにキリで穴をあけて、硬い棒をさしこむ

できあがり

コナラ ブナ科

樹液にはチョウやカブトムシなどが集まります。ドングリは楕円形で、秋に落ちたドングリは、発根して冬を越し、春に芽吹きます。

野遊びの注意

※ハチなどのあぶない生物がいないかよく確かめましょう

※さわるとかぶれる植物に注意しましょう

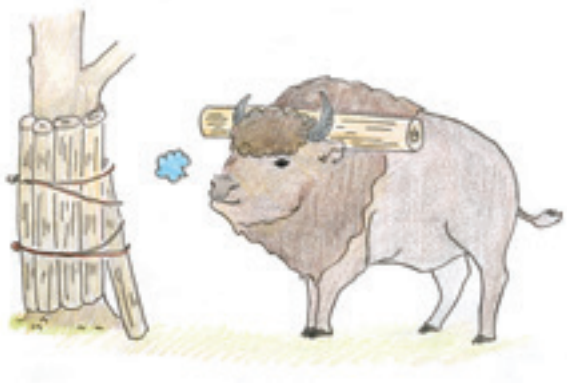
スズメバチ

ツタウルシ

ウルシ

しいくうらばなし

「アメリカバイソンの得意技」



アメリカバイソンのオスはまだ子供で元気いっぱい、遊びたい盛りです。ところが1頭だけでの飼育なので、どう見てもひまをもてあましていました。ふと思いつき、遊び道具になればと短い丸太を運動場に入れてやりました。最初は警戒していたものの、思惑通り、すぐにその丸太で遊び始めました。角や鼻先で押してゴロゴロ転がしたり、前足で踏んづけたり、顔を押し付けたり…夢中になっています。そのうち丸太の扱いがどんどん上手になり、サッカーのドリブルのように丸太を押しながら走るようになりました。ところが遊びの終わりはいつも一緒で、丸太をお客さんと運動場を隔てる堀に落としてしまうのです。その後はすることがなくなって、またひまな状態に逆戻り。何とかしてあげなければ。

丸太が小さくて軽すぎるからいけないのかと考え、今度は直径20cm、長さ2mほどのものを入れてやりました。バイソンはそれを見つけるとすぐに走り寄り、転がしにかかりましたが、前のようには簡単にいかず、明らかに苦戦し、より大きな鼻息を上げながら転がそうとします。しめしめ、うまくいった。バイソンは毎日長い時間遊べて、満足げに見えます。

ところがそんなある日、今まで見たことのない光景を目にして驚かされました。バイソンが丸太を担いでいたのです。私と目が合うと得意満面、丸太を担いだままこちらに寄ってきます。まるで材木を運ぶ大工さんのようです。一体どうやってまたそんな器用なことを…？　その疑問はすぐに解けました。ちょうど担ぎ上げるところを目撃したのです。転がる丸太の先端を片方の角にひっかけて持ち上げて頭をもぐりこませ、重さのバランスが取れる所に頭を移動させて、そのまま頭と肩の間で担いでいたのでした。お見事!

それはそれでバイソンの遊びが増えてよかったのですが、困ったことになりました。運動場内の木を守るために、木にぐるっと1周立てかけて巻き、針金で止めてある長い丸太を、角で器用に抜き取って担ぎ上げ、得意げに運ぶようになってしまったのです。やめてくれよ～。毎日直すのが大変なんだよ～。

「おいしいものはとっておくタイプ?」

ニホンリスが食べ物の少なくなる冬に備え、おもにクルミや松の実などを埋めたり隠したりして貯めこむ“貯食”はよく知られています。ところが同じリス科なのにホンシュウモモンガはあまり貯食をしません。もう何年もたくさんのモモンガを飼育していますが、今年の秋に初めて1組のホンシュウモモンガのペアの貯食を見つけました。でも、その貯食はちょっと変わっていました。

モモンガは臆病なので、驚かして繁殖に影響しないよう、日中こもっている巣箱の中はめったに覗かないのですが、たまたま掃除をしようと開けてみたところ、巣箱の中ほどまでぎっしりと詰まっていたのは…パンでした。なぜ、パン?
毎日一緒に与えていて、より保存のききそうなクリでもなく、サツマイモ、リンゴ、ニンジンでもなく、パンだけを貯めていたのです。

それを見たときすぐに思い出したのは、給食のコッペパンが大嫌いで、カビが生えるまで机の中に貯めこんでいた、かつての同級生でした(僕じゃありません、同級生です)。

はたしてモモンガは冬の食べ物に最適だと思い、パンを貯めることを選んだのでしょうか?あるいは、好物を最後まで取っておくタイプだったのでしょうか?まさか、嫌いで隠したんじゃないよね、好き嫌いして怒られると思って?

「ライオンと知恵くらべ?」

動物公園のライオンには週に1度、あえて餌を与えない絶食日を設けています。それは、野生では餌にありつけない日も多いはずですから、それに似せるためで、また動物公園での生活のメリハリにもなるはずです。ふだんはライオンが運動場にいる間に寝室に餌の肉を用意しておき、夕方に遠隔操作で戸を上げると、お腹を減らしたライオン達が自分で寝室に入ってくる‥こういう仕組みで生活しています。ところが絶食日になると、ライオンたちはなぜか寝室に餌がないのを察知して?なかなか入ってきません。まさかお尻を押してしまうわけにもいかず、また外に出しっぱなしにして帰るわけにもいかないので、とても困ります。

なぜ絶食日だとばれるのだろうかと考えました。

〈仮説1〉曜日を覚えてしまった←そんなわけはないとは思いつつ、曜日をずらしてみましたが、無駄でした。

〈仮説2〉その日餌を準備しに来たかどうかを1日中横目でチェックしている。←寝室には運動場とは反対側から入るので関係ないとは思ったのですが、絶食日にこれ見よがしに空のバケツを持って寝室に入ってみましたが、その日もなかなか入りませんでした。

〈仮説3〉餌を準備する音をチェックしている。←これはかなり可能性があると思い、途中で少し馬鹿らしくなったものの、いつもと同じように空のバケツをバイクで運んで来て、いつもと同じ手順で寝室に入り、餌を準備する渾身の演技をしました。これでどうだ! 原因究明だ!! と思ったのですが…、無駄でした。やっぱりなかなか入りませんでした。私の演技が下手だったのでしょうか?そうだとしても、くやしくなりそうなので、演技の練習をするつもりはありません。

〈仮説4〉匂いで分かる。←残る可能性としてはこれしか思いつきませんが、その実験方法がいまいちよくわかりません。というか、寝室に肉の匂いだけ付けておくという作業をするくらいなら、肉を少しだけあげた方が早いからです。

ということで、いまだにライオンたちとの知恵くらべ?が続いています。

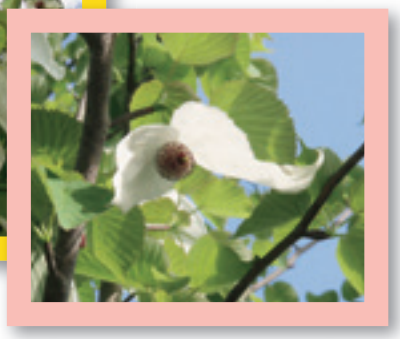
「マオに教える熱血パパ」

ゾウの健康状態を知るのに、おしっこが役に立ちます。特に繁殖が期待されるメスのマオの排卵の周期を知るのに、おしっこの中のホルモンの測定は欠かせません。それまではマオがおしっこをし始める体勢になると、あわてて長い柄のついた柄杓を柵越しにあてがってとっていたのですが、間に合わなかったりして、なかなかうまくいきませんでした。そこで意を決し、号令でおしっこをするように訓練することにしました。訓練はこうです。マオがたまたまおしっこをし始めたら、耳元で号令を発し、“よくできた、よくできた”と最高にほめながら大好物のバナナをあげるのです。ゾウは頭の良い動物ですから、すぐに関連付けができて、号令でおしっこをするようになるのです。これまで鼻や足を上げるのも、前進・後退するのも、伏せも寝るのも、すべてこうやって覚えさせました。

自然に選んだ号令は「シー、シー、シー」。単純ですね。自分の子供にもこれで教えました。ところがふと気が付いたのは、大の大人が何人もゾウを囲んで「シー、シー」と言っている様子は、客観的に考えて、そうとは知らない人が見たら“変”だということです。それからこんな混乱もありました。「シー、シー」というとマオは前足を上げろの号令“あし”と勘違いして、前足を右、左交互にあげてバタバタし、“え?何?こうじゃないの?”という顔をしています。号令を変えたほうがいいとみんなで考えましたが、なかなかいい案が出ません。

号令が定まらないまま訓練を続けましたが、なかなかうまくいきません。一度だけピタッと決まれば、後は号令でおしっこをしてくれるようになるのに、その一度がなかなかできないのです。自分の子に教えていた頃のことも頭によぎりながら、大きな娘のように思っているマオがおしっこの体勢になった時、なかなか訓練がうまくいかない苛立ちもあったのでしょう、柄杓をあてがいながらつい大きな声で「そうだマオ、ガンバレ、ガンバレ!」と、一生懸命応援してしまいました。

なぜかそれ以降、おしっこは順調にとれるようになり、すっかり定まったのは、マオにおしっこをさせる号令、「マオ、ガンバレ、ガンバレ!」です。なんだか熱血パパみたいで、いやだなあ〜。



ハンカチノキ(ミズキ科)

中国原産のハンカチノキは、他に近い仲間のない1属1種の“古い”タイプの樹木で、“生きた化石”とも言われます。寒さに強く、日当たりの良い場所に自生して、成長すると高さ20mほどにもなります。

名前の由来でもある白く大きな花びらに見えるものは、実は花びらではなくて苞葉という葉で、たくさんの雄花と1つの雌花が球状に集まって咲く花には、花びらがありません。この苞葉は確かにハンカチによく似ていますし、この木は他にユウレイノキやハトノキとも呼ばれます。

この苞葉には紫外線を吸収するフラボノイドがたくさん含まれていて、花への太陽光を日傘のように遮り、有害な紫外線を通さずに必要な光だけを通して花を守るという、素晴らしい働きがあります。

ハンカチノキは元々日本には自生せず、動物公園の木も植樹されたものです。子供動物園となりの芝生広場で５月中旬から６月中旬にかけて花を咲かせますので、ぜひ一度見に来てください。

ZOO もりおか 第24号 2015年
発行日／平成27年3月19日

編集・発行／（公財）盛岡市動物公園公社
〒020-0803 岩手県盛岡市新庄字下八木田60-18
TEL.019-654-8266

印　刷／川口印刷工業株式会社